

大果で食味良好な半おい性のパパイヤ 「石垣ワンダラス」

パパイヤは、世界の熱帯・亜熱帯地域で広く生産されており、生食用パパイヤは、「サンライズ」が世界市場および国内市場で高い評価を受けています。しかし「サンライズ」は、樹高が高くなり、台風の常襲地域や施設内では安定した生産が困難です。そこで、国際農林水産業研究センター 熱帯・島嶼研究拠点では、おい性で「サンライズ」と同等かそれ以上の果実品質特性を持つパパイヤの新品種を育成しましたので紹介します。

☆ 技術の概要

1. 1997年に「ワンダーブライト」の自然交雑種子を播種し、2000年におい性程度と果実品質で一次選抜しました。2001年から品種登録に向け、無加温のビニールハウス内で養液土耕栽培を行い、特性調査を開始しました。2008年に栽培特性、果実品質とも優れているとの結論を得て、2009年3月に品種登録を申請し、2009年9月に品種登録されました(第19801号)。
2. 果形は、楕円に近い倒卵形で、平均1796gと大玉です。果皮は鮮橙色、果肉は橙赤色で厚みがあり、果実に稜線が認められないため剥皮しやすく、高い調理性を持ちます(図)。
3. 糖度は平均13.9%と「ワンダーフレア」より高く「サンライズ」や「石垣珊瑚」と同程度で、強い芳香があり、食味良好です。
4. 樹勢は中庸で、樹姿は直立性の両性系統です。節間長は平均24mmと「サンライズ」に比べて短く、おい性品種である「石垣珊瑚」や「ワンダーフレア」に比べると長く、半おい性を示し、着花開始節は平均21節です。



図 「石垣ワンダラス」の果実と樹姿

☆ 活用面での留意点

1. 果実の肥大は、無加温ビニールハウス栽培では季節に強く影響を受け、着果量によっても異なります。
2. 高温期・低温期には花粉稔性の低下による不受精のため、落花・落果が起こりやすく、結実性を高めるためには雄性株の花粉を用いた人工授粉を行う必要があります。
3. 接ぎ木および挿し木繁殖が困難であり、また、ウイルス被害の回避のため、ウイルス無毒株の組織培養による増殖を推奨します。
4. 詳細については、国際農林水産業研究センター 熱帯・島嶼研究拠点 広報担当 (TEL: 0980-88-6201)にお問合せください。

(果樹研究所 カンキツ研究領域(口之津) 上席研究員 深町 浩)